

トビアス君の愛妻からのメッセージ

今朝、トビアス君と結婚した親族の娘からメールが送られてきました。私が郵便局に確かめて、12月12日までに投函すると、ドイツにクリスマスまでには着くという事で11日に投函したクリスマスカードが、なんと、1月7日に到着したようです。けれどもとても喜んでくれました。ドイツのエピファニーの様子を知ることが出来ました。



今年もよろしくお願いいたします。

今日クリスマスのカードとお菓子が届きました！ありがとうございます！消印から察するにかなり早めにお送りくださったようですがクリスマスで物流が普段より多いことや、それでもしっかりとられる働き手の休暇の影響で、届くまで若干時間が掛かったようです。

エピファニーを過ぎて本来ならクリスマス関連の品はしまわなければいけない時期ですが、上記のような事情があったのだから許されるはずと、カード(横浜港南台教会内 麦の会作成)は今日から暫く飾らせていただくこと

にしました。ステッチがとっても可愛らしく暖かみがあって、素敵！ありがとうございました。甘納豆は大事にちびちびいただきます。

新教徒からするとあまりピンと来ないんですが、こちらの公現祭はカトリックの方々が張り切ってお祝いでいます。ドイツでは東方三博士のイニシャルを西暦で挟んだ印を、玄関に白墨で記してあったらそこのおうちはカトリック。今年だと「20*C+M+B*15」ですね。(博士の名前:Caspar, Melchoir, Balthazar)ラテン語だかギリシャ語だかの、「Christus Mansionem Benedicat」(May Christ bless this home)と同じ頭文字なので、新年の家内安全祈願も兼ねているそうです。この印を目印に、三博士に扮した子ども達や教会の人が訪問したりもするとか。旧教徒の多い州では祝日(残念ながら私の住むラインラント・プファルツは平日)で、パレードなんかもするようです。

国によって風習がかなり変わるようで、フランスだとガレット・デ・ロワを食べて中に隠されているフェーブ(指輪、コインなど)を引き当てた人がその年の王様、だとか。スペインでは三博士の贈り物に因んで、子どもたちがプレゼントを貰うのはクリスマスではなくエピファニー、だとか。またドイツは最近ロシア正教圏の方々が数多く流入してこられているので、7日の今日がようやくクリスマス本番という人もたくさんいます。

私としては七草粥が恋しい日、でしたが、色々あって興味深いです。新しい年も、秋吉家のみなさまの上に主の豊かな恵みがありますようお祈り申し上げます。トビアスの妻より

(青文字は私が挿入)



ガレット・デ・ロワ

このように、それぞれのキリスト教国が、それぞれの伝承、風習を楽しみながら、子どもの心の中にクリスマスを楽しみに待つ思いをはぐくむのでしょうか。

数年前から、外国へ何枚か、麦の会のクリスマス・カードを送ってきました。以前は和紙のちぎり絵のカードを作られる方がおられ、私は愛用しました。彼女のカードも大好評でしたが、麦の会のクロス・ステッチ・カードも、とても皆様に喜ばれています。